

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和2(2020)年1月1日 水曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

天台宗全国一斉托鉢を実施

宗祖大師の御精神を現代に生かす

謹んで新年のお慶びを申し上げます

天 台 宗
一隅を照らす運動総本部

天台宗では、毎年12月1日に全国一斉托鉢を実施している。今年で34回を数えており、今では「師走の風物詩」として定着している。「宗祖伝教大師の御精神を現代に生かそう」という趣旨から実施されているこの一斉托鉢は、同日を中心に全国で行われている。寄せられた浄財は、一隅を照らす運動総本部(森定慈仁総本部長)の地球救援募金として、内外の福祉活動への支援に充てられる。

この「全国一斉托鉢」は、昭和61年(1986)に故山田惠諦天台座主猊下が自ら先頭立ち、浄財勸募にあたられたことに始まる。それ以来、毎年行われてき



たが、平成9年(1997)より12月を『地球救援活動強化月間』と定めて、1日を全国一斉托鉢の日とし、一隅を照らす運動の各教区本部、個別寺院単位で実施されてきた。

托鉢行脚はもとより、街頭募金やバザーなど様々な方法での浄財勸募が行われ、全国各地で多数の方々から心こもった浄財が寄せられている。

同日の比叡山麓の大津市坂本地区での托鉢では、森川宏映天台座主猊下をはじめ、杜多道雄天台宗務総長、小堀光實延暦寺執行、延暦寺一山住職、天台宗務庁役員など約100名が参加した。

伝教大師生誕の生源寺において森川座主猊下を導師に法楽を執り行った後、坂本地区の里道を戸口で読経しながら托鉢行脚。毎年恒例の行事であり、玄関口で待ち受ける人も多く「恵まれない方たちに」との言葉と共に心のこもった浄財が寄せられた。

その後、戸別托鉢、JRや私鉄の駅前での街頭募金も実施された。この托鉢で寄せられた浄財はNHK歳末たすけあいと同海外たすけあいに寄託された。

そのほか、全国各地托鉢で寄せられた浄財も、各地の社会福祉協議会や日本赤十字社に寄託される。



様々な世代から浄財が寄せられた



極微

タワーマンション

といわれる高層の建物があるここに建っている。日本では地上数十メートルから高くても二百数十メートルほどだ。地震の多い日本ではこの高さなんだろうと思うが、外国では四百メートルを超えるものもあるという▼地震が起きた時「停電になっていろいろ設備が止まったらどうするんだらうか」と人ごとながら危惧していた。エレベーターが止まった時、何十階も歩いて行き来することはとてもじゃないが無理だ。トイレも、上水道も電気頼みだから、日常生活はストップだ▼昨年の台風19号の襲来では、その恐れが現実となった。川崎市武蔵小杉のタワーマンションでは浸水により電気設備が麻痺して、エレベーターは止まり、トイレもキッチンも水が止まった。しかたなく住民は親戚や近くのホテルに避難したという。タワーマンションは歴史は浅く、建て替えとかりリニューアル工事の時期はまだ先だし、諸々の問題は考えなくともよいのか、今まで人気は衰えなかった。人気の理由は「眺めが良い」「上層で虫に悩まされない」「防犯上安心」などで、デメリットに「地震のゆれが大きい」「荷物運びが不便」「強風」「洗濯物が干しにくい」などが、そんなことはものともしない人気だった▼今回、現実の不具合が起きたことで、果たしてこのまま人気は続くのか、それとも、凋落するのか。